

日・韓・中 3カ国学術交流の報告

副会長／国際学術交流促進委員会委員長 和気 純子（東京都立大学）

日本社会福祉学会は、韓国社会福祉学会および中国社会学会社会福祉研究専門委員会と「韓国・中国・日本における研究交流の推進に関する覚書」を締結し、それぞれの研究大会等を通じて学術交流を行っています。交流は、主に各学会の年次大会等におけるシンポジウムへの相互招聘と会員の個人研究発表の機会の提供によって行われています。

ところが、周知のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年より対面での研究大会の開催が困難な事態が続いています。こうした状況で、2021年8月4日、オンラインにて日中韓三か国会長会議を開催し、今年度予定されていた、幹事国である韓国に参集するかたちでのシンポジウムを来年度に延期することを決定しました。一方、各国で開催される研究大会は、オンラインでの開催となった場合も、覚書にそって会員個人の研究発表の機会を維持することで合意しました。

最終的に、各国ともオンラインによって秋季大会を開催し、交流事業を展開しました。日本では、9月11日～12日に第69回大会（東北福祉大学）をオンラインで開催し、韓国より5件、中国より2件の自由研究発表が行われました。また、韓国では、10月22日～23日の秋季大会（ソウル大学）において、日本から1件の自由研究発表が行われています。中国の秋季大会は、当初の予定（10月9日～10日）から12月12日に延期となりましたが、無事にオンラインで開催され、日本から1件の自由研究発表がなされました。

新型コロナウイルスの感染拡大による混乱が本年も続きましたが、オンラインでの参加方式が普及し、会員の国際学術交流を継続させることができました。また、国際学術交流委員会が主催した留学生と国際比較研究のためのワークショップでは、海外で教鞭をとる会員がオンラインで発題し、オンラインでのグループ懇談会も開くことができました。時差の調整という課題はあるものの、オンライン形式が導入されることで、以前よりも国際的な学術交流が容易になっている部分もあります。対面による学術交流が復活する日が1日も早く訪れることを祈りますが、同時に時間や経済的な制約を考えると、オンラインによる交流も一つの手段として併用していくことも有用かもしれません。

なお、国際学術交流促進委員会では、韓国や中国のみならず、欧米諸国との交流や情報交換の機会を拡大することを念頭に、今後、世界で活躍する会員や研究者から、最新の研究動向や現地の学会の情報などを、リレー方式で紹介いただく機会を設けることを考えています。また、広報委員会の活動として、ホームページをさらに国際化し、韓国語、中国語、英語への翻訳を充実させる予定です。ウイズコロナの時代、対面での交流が難しい状況が続きますが、多様な媒体や手段を活用し、学会および会員間の国際学術交流を継続し、さらに発展させるよう取り組んでまいります。